

例 児童生徒理解・支援シート

作成日:令和 年 月 日

校長名

担任名

作成者 R5(記入者名)

追記者 RO(記入者名)／RO(記入者名)／…

(児童生徒)氏名

(よみがな:みはら たらう)

三原 太郎

年 月 日

学年

組

(保護者等)氏名

(よみがな:)

続柄

学校受入年月日(※)

連絡先

平成 年 月 日

◎学年別欠席日数等

追記日

〇／〇

令和5年度

4

5

6

7

8

9

10

11

12

1

2

出席しなければならない日数

出席日数

別室登校(SSR・学校ふれあい・保健室等)

欠席日数

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

関係機関と連携状況

①教育支援センター(三原ふれあい教室・本郷分室)

②ICT等の活用

③児童相談所・保健福祉課

④発達相談センター(すくすく等)

⑤病院、診療所

⑥民間団体、民間施設(フリースクール等)

⑦その他の機関等

関係機関との連携状況について
通室や通所回数及び連携回数を記入してくだ

不登校となった原因について、記入
してください。年度途中の状況把握
の中で、要因が変わっても良いです。

8月末までの出欠状況を確認
します
別室登校については、現時
点で分かる範囲で記入して
ください

◎ 不登校の要因

M 無気力、不安

なつた原因

昨年度、夏休み明けから、欠席が増え始め、登校できなくなった。明確な理由はなく、何となく学校へ行く気が無くなった。友達などに誘われると登校することもあるが、長続きがしない。

◎校内での支援状況

別室(学校ふれあい教室)

児童生徒の状況を記入

◎校外での支援状況

教育支援センター(ふれあい教室)

◎関係機関との連携状況

医療機関

ブルダウンでそれぞれ選ぶことが
出来ます。長期欠席報告書
と同様です。

◎本人の状況・意向

1学期 7／15

2学期 11／15

3学期 3／15

春休みを挟み、教育支援センター(三原ふれあい教室)へ通室することが出来ていない。
週1回の家庭訪問を継続し、本人と話は出来ている。
学力がつかないことを気にしている。

週1回の家庭訪問を継続し、本人・保護者は話は出来るが学校への登校や教育支援センターへの通室につながらない。
修学旅行へは参加できなかったが、本人は仕方ないと思っている。
家で学習を行うことは出来ておりICTを活用した学習にも少しずつ取り組めるようになってきた。

卒業式へ向けて、週1回の家庭訪問を継続している。
ICTを活用した授業参加も少しずつ出来るようになった。
教育支援センターへ週1回通室出来るようになった。
中学校への進学について不安を持っている。

◎保護者の状況・意向

1学期 7／15

2学期 11／15

3学期 3／15

教育支援センターへ通室ができない状況にある。
学校・教育支援センターとの関係は良好である。
このまま引きこもりにならないか心配している

修学旅行への参加には意欲的であったが、結局参加できず、
残念がっていた。
中学校への進学を考え、学力をつけたいと考えている

卒業式へは出席してほしいと考えている。
中学校進学後はどのような支援を受けることができるのか気にしている。

◎具体的な支援方針

目標

具体的支援(学校)

関係機関

経過・評価

1学期 4月15日
継続的な家庭訪問により、学校との関係を維持し、学校への登校や関係機関とのつながりを探る。

・家庭訪問(週1回)
・学級の様子伝達
・学習プリント等の配付
・ICTの活用

・教育支援センターとの協議
・フリースクールとの連携
・SSWによる家庭訪問等

2学期 8月24日
修学旅行への参加をめざす

・家庭訪問(週1回)
・修学旅行の取組の様子を伝える
・学習プリント等の配付
・ICTを活用してリモート参加

・教育支援センターとの協議
・SSWによる家庭訪問等

3学期 12月20日
中学進学への不安の軽減と卒業式への参加に向けて取り組む

・家庭訪問(週2回)
・学習プリント等の配付
・ICTを活用してリモート参加
・卒業式に向けての取組内容や中学校の情報共有

・教育支援センターとの協議
・SSWによる家庭訪問等

本人の状況や意向と保護者の協力状況などを総合的に判断し、組織的に支援策を示します。一学期間取組を行った後、経過や評価を組織で行い、次の学期の目標を

◎次年度への引継事項(支援・指導の参考となるエピソード等も含め、多様な視点で記入)